

～闘魂記～

「闘魂」・・・魂をもって闘おうとする気持ち

西東京市立ひばりが丘中学校第3学

年 第49号 2025年 3月12

日(水)

学年目標「自主・自主」

「 本物の力 」

3月6日(木)、笑顔と学びのプロジェクトの一環で行われた劇団四季ミュージカル「美女と野獣」を観劇しに舞浜アンフィシアターに行きました。道中バスの車内では楽しみしている生徒たちの声が印象的でした。到着すると車内でお弁当を食べ、会場に入りました。会場には他校の中学生、高校生、一般のお客さんとさまざまでしたが、そんな中でもひばりが丘中学校の生徒たちは観劇する姿はもちろん、服装や開演する前の態度やマナーがとても立派で成長を実感しました。

12時半に開演すると一気に舞台に引き込まれました。「本物は違う…」とすぐに実感できると共に、心が揺さぶられその演出に「感動」しました。役者さんの演技力や歌唱力はもちろんのこと、舞台セットの見せ方や音響、照明のタイミング全てがあいまって圧巻のステージが繰り広げられました。

さて、第1回の卒業式練習では「最上級生としての役割と責任を考え、儀式に相応しい機敏な動き」と「3年間で成長した姿を参列した方たちに魅せ、感動的な卒業式にしよう」と話をしました。そのためには、美女と野獣のように一人一人が役割を全うしなくてははいけません。

例えば、「呼名をされたときにふざけたような返事をしたり」、「証書授与のときに自席でだらしない格好で座っていたり」、「隣の人と会話をしていたり」、「服装がだらしなかったり」すれば、他の人がいくらしっかりやっても「感動的な卒業式」にはなりません。それは今回の「美女と野獣」というミュージカルを観て改めて感じました。いくら役者さんが素晴らしい美声で歌っても曲や照明のタイミングが少しでもずれたり、脇役の人の演技力が未熟だったりでは人の「心」は揺さぶられません。だからこそ一人一人が与えられた場所で責任をもって役割を全うし、義務教育最後の授業である「卒業式」を学年が一体となってつくり上げていくことが必要なのだと思います。

ここから卒業式練習は佳境を迎えます。一人一人が役割を全うすることで「本物」をつくり上げます。この学年便りのタイトルのように3年間の思いという「魂(闘魂)」をもって卒業式を迎えられるようにしっかりと練習をしていきます。そして、ただ単純に卒業するから感動するのではなく、「3年生の卒業式に臨む姿が本当に立派で頼もしいから」、「成長を感じるから」感動するという「本物」の舞台をつくり上げてくれることを期待しています。

卒業まであと5日…。

「闘魂学年の先生方の3年間の日常」

学年の先生たちはいつも休み時間になると生徒たちの近くに行き、何気ない会話や見守りを3年間続けてきました。うまくいくこともあれば失敗することもある中学校生活だからこそ、どんな生徒にも常に寄り添い、支えてきました。そんな生徒たちと過ごせる時間はあとわずかですが、卒業して立派に巣立っていくこと、新

たな門出に心から「おめでとう」と伝えたいです。また将来大きく飛躍することをいつまでも願っています。

<美女と野獣>

